



おぐら
尾倉

校訓
自主
創造
協力



令和4年7月8日(金)発行
校長 栗原博巳
北九州市八幡東区尾倉三丁目10番1号
HP: www.kita9.ed.jp/ogura-j/

<学校教育目標>

豊かな心を持ち、健やかでたくましく行動する生徒の育成～みんなで考え、みんなで取り組み、みんなでつくる尾倉中学校～

<目指す生徒像>

- ① 感性豊かで、意欲的、主体的に学習する生徒
 - ② 健康で明るく、思いやりのある生徒
 - ③ 礼儀正しく、奉仕の精神に満ちた生徒
- ◇ 元気のいい挨拶・礼儀・身なり・学習規律と集団生活における規律とマナー

北九州英語村(KGG)体験学習【3年生】

7月6日(水)本校3年生が北九州英語村(KGG)で体験学習を行いました。楽しみにしていた人もたくさんいたようです。この日は、「スタジオ」「ホテル」「ショッピング」の英会話を楽しみました。アクティビティの合間のイメージルームでは、クイズや自己紹介などに取り組んでいました。日頃の英語の授業の成果は出せたでしょうか。先生目から見て、一生懸命、恥ずかしがらずに英語を使っていた姿がとても印象的でした。さすが3年生です!英語を使うときのポイントの一つです。それは、「Don't be afraid to make mistakes!(Don't be afraid of making mistakes!)」です。間違いを恐れず、チャレンジしていきましょう。

2021年度から中学校で新学習指導要領が実施されました。英語は国際的基準であるCEFRをもとに検討され、「やり取り」と「発表」の2領域に分けて目標が設定されました。

では、英語での「やり取り」と「発表」では、一体何ができればよいのでしょうか。中学校英語の新学習指導要領では、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を総合的に高めるための改訂が行われました。具体的な目標はCEFR(セファール)をもとに検討されています。

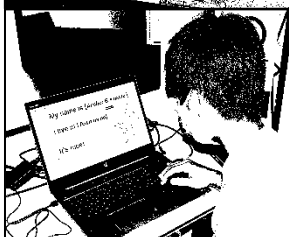
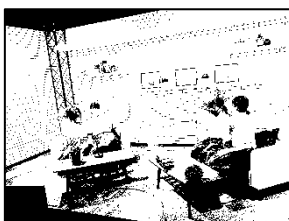
CEFRとは、「ヨーロッパ言語共通参照枠」と呼ばれる語学力の国際基準です。A1からC2まで6段階あり、最も低いA1は英検3級までのレベルです。。友達の紹介や持ち物など「よく使われる日常的表現と基本的な言い回し」を理解して使えるレベルです。大まかに考えると、中学英語ではA1のクリアが目標となります。「話すこと」の1つ、「やり取り」の目標は以下の3つです。

<話すこと[やり取り]の目標>

- 関心のある事柄:簡単な語句や文を用いて即興で伝え合う
- 日常的な話題:事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりする
- 社会的な話題:考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて述べ合う

スムーズに会話できるようになるには、「自分なら何を言いたいか」を意識して英語表現を工夫し、思いついたら、実際に声に出す練習も大切です。3つめの目標にある社会的な話題に対応するには、ニュース取り上げられる出来事が英語でどう表現できるのかを調べておくといでしょう。

「話すこと」のもう1つの領域「発表」でも、「やり取り」と同じように即興で自分の考えを伝える



ことが目標になります。

<話すこと[発表]の目標>

- 関心のある事柄:簡単な語句や文を用いて即興で話す
- 日常的な話題:事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話す
- 社会的な話題:考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて話す

「発表」と「やり取り」の大きな違いは、相手の質問にキャッチボールのように答える必要があるのか、自分の意見をまとまりのある内容として話すことが重要なのかという点にあります。

「発表」では、単に自分の意見を述べるだけでなく、「なぜそう思うのか」「どのような事例やデータがあるのか」などを意識して話さなければなりません。

英語の「話すこと」の2領域「やり取り」と「発表」には、それぞれ異なるポイントがあります。

「やり取り」では、学習した表現をアレンジして実際にその場で声に出す練習が大切です。「発表」では、自分の考えの理由や根拠となる事例などを提示できるようになりましょう。

まずは「自分は何を伝えたいのか」「なぜそう思うのか」「どのような事例があるのか」を意識することから始めてみてください。(参考:ベネッセ)

ため池での水遊び・魚釣り禁止の周知と事故防止

北九州市教育委員会生徒指導課、産業経済局農林水産部農林施設担当課より、注意喚起がありましたのでお知らせします。

全国的にため池や河川での水難事故が毎年起きています。福岡県においても、過去に7歳と5歳の幼い兄弟がため池に落ちたボールを拾おうとして転落し亡くなるという痛ましい事故が発生しています。そうした中、北九州市には約500箇所という多くのため池があり、事故防止のために、侵入防止のフェンスを設置しているところですが、これが切断されている状況も散見される状況です。

そのため、これまでも「市政だより」等で、水難事故に対する注意喚起を行っていますが、事故防止には、何より保護者をはじめ地域ぐるみの見守りや指導が不可欠です。ため池での水難事故は、春期から夏期にかけて事故が多く発生しており、農繁期となり施設の管理・操作の頻度が増加することや気温の上昇に伴い、娯楽などによる利用者が増加することが考えられます。

事故者は若年層や高齢者が多く、若年層の場合は、ため池の危険やその判断力の欠如により危険な区域へ進入することが考えられます。また、高齢者の場合は、施設管理や散策時に転落しやすいことが考えられます。利用形態から見ると、娯楽中と車両運転中の事故が多く、娯楽中における事故は、判断力の欠如によるものや危険な区域に侵入し転落するケースが考えられます。また、隣接する道路からの車両転落事故が多く、道路管理者による車両防護柵の設置が望まれます。

事故に至る経緯は、釣り、水遊び及び散策などの娯楽中及び堤頂や隣接する道路における自動車運転中の転落などの車両事故が多くなっています。

